

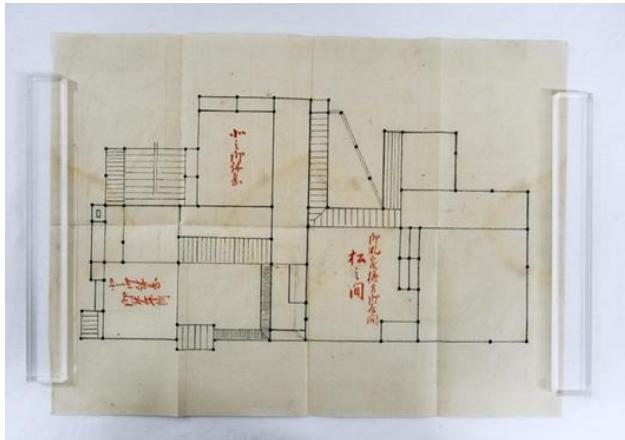


市政記者クラブ加盟社 各位

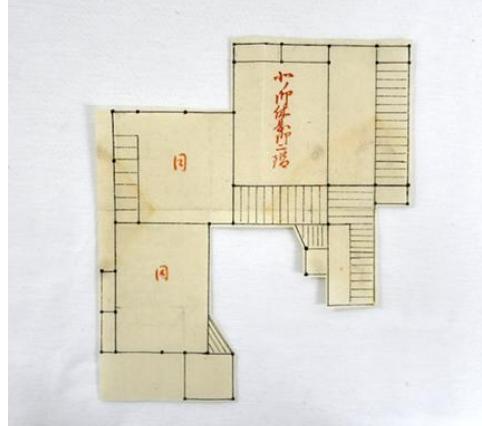
## 盛岡城の“最後の姿”を語る一枚 もりおかじょうほんまるきたのごきゆうそくのす 「盛岡城本丸北之御休息之図」

盛岡城関係史資料調査の取組により、盛岡城本丸御殿北西部を描いた平面図「盛岡城本丸北之御休息之図」を新たに確認しました。

この絵図はもりおか歴史文化館収蔵「被仰出書留」内に袋綴じされた状態で見つかりました。内容は、嘉永3年（1850）、15代藩主南部利剛の盛岡下向に合わせて本丸御殿を改築した際に作成された完成図面で、明治初年に本丸・淡路丸を撮影した唯一の写真資料である「盛岡城古写真」に写っていない御殿北西部の最後の姿を知ることができる貴重な資料です。各階の図には「北之御休息」や「御仕舞所」、藩主の子弟が利用する「松之間」などの部屋名が朱書きされ、当時の間取りの状況や、一・二階の重ね図により建物の階層構成を確認できます。今回の図面の確認は、前述の古写真などの資料や、昭和59年から進めている発掘調査成果などと併せて研究を進めていくことにより、盛岡城の在りし日の姿を解明していく重要な手掛かりとなるものと捉えています。

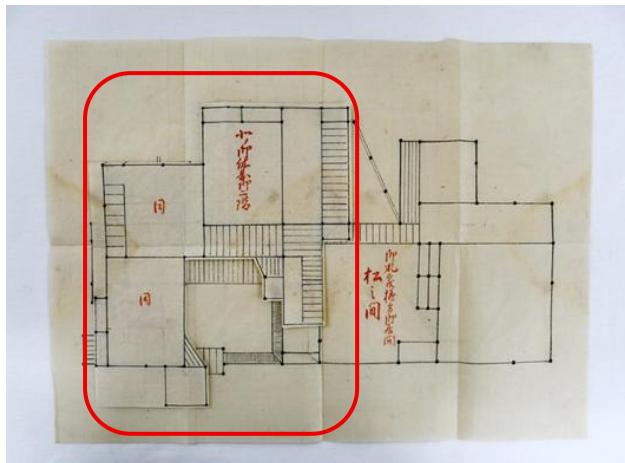


「盛岡城本丸北之御休息之図」 一階部分



同左 二階部分

もりおか歴史文化館収蔵



一・二階部分の重ね図（□：二階）

※詳細は別添説明資料を御参照ください。

### 【担当】

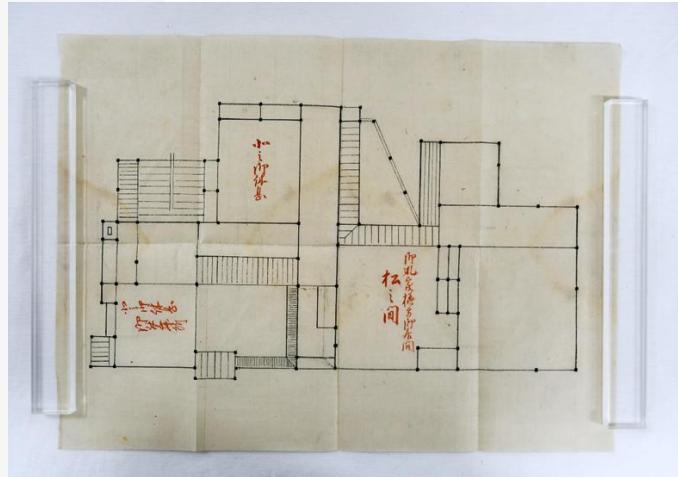
盛岡市教育委員会事務局歴史文化課

盛岡城史資料調査担当：花井（はない）

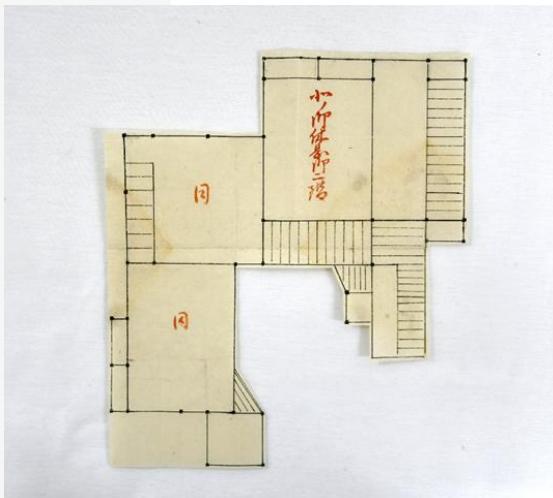
電話：019-639-9067

# 「盛岡城本丸北之御休息之図」について

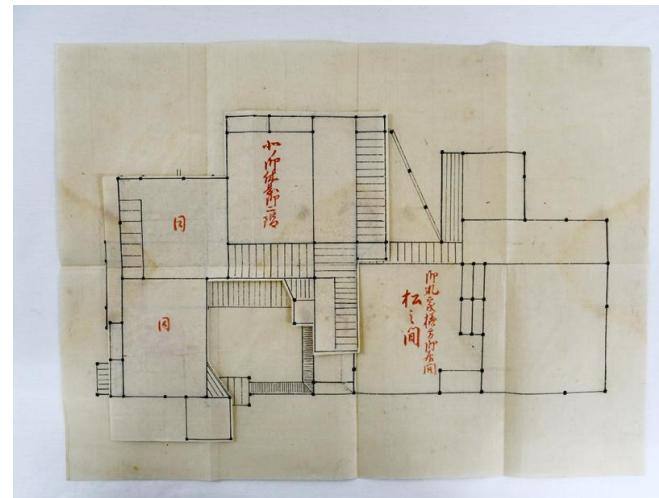
## 1 資料概要



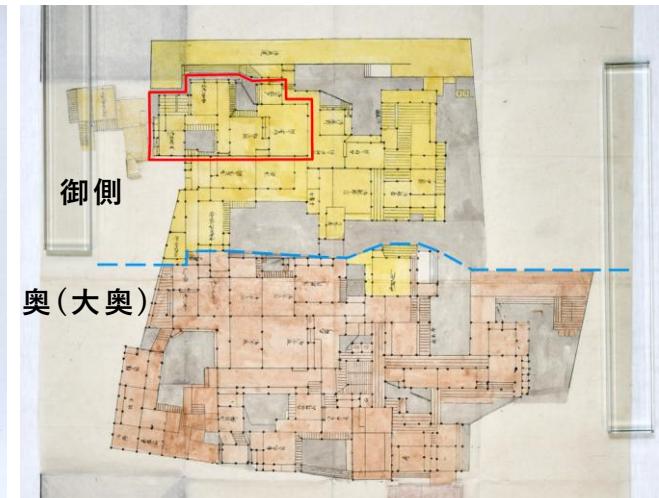
「盛岡城本丸北之御休息之図」一階部分



同左 二階部分



一・二階部分の重ね図



確認された絵図範囲(一部分)  
(絵図に近似する「盛岡城本丸図」に加筆)  
もりおか歴史文化館収蔵

## 2 絵図が示す建物位置

ニノ丸

渡雲橋

本丸

台座

天守台

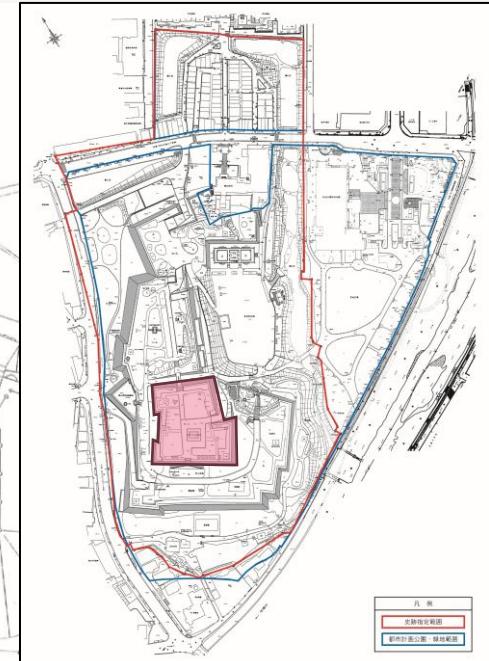
淡路丸

\*「盛岡本丸図」の柱と北東部礎石を照合後、絵図四隅の角度調整、四分割している。

20m

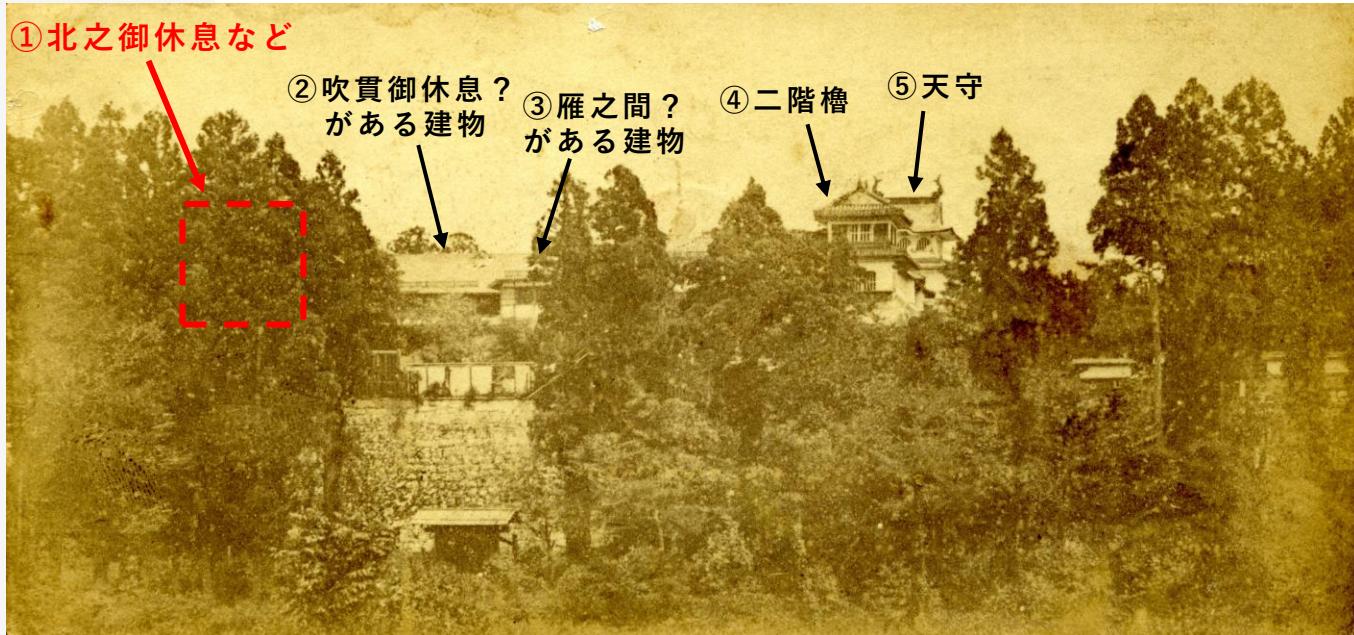
もりおか歴史文化館収蔵(加筆)

現況図（発掘調査成果加筆）に「盛岡城本丸図」を合成した図



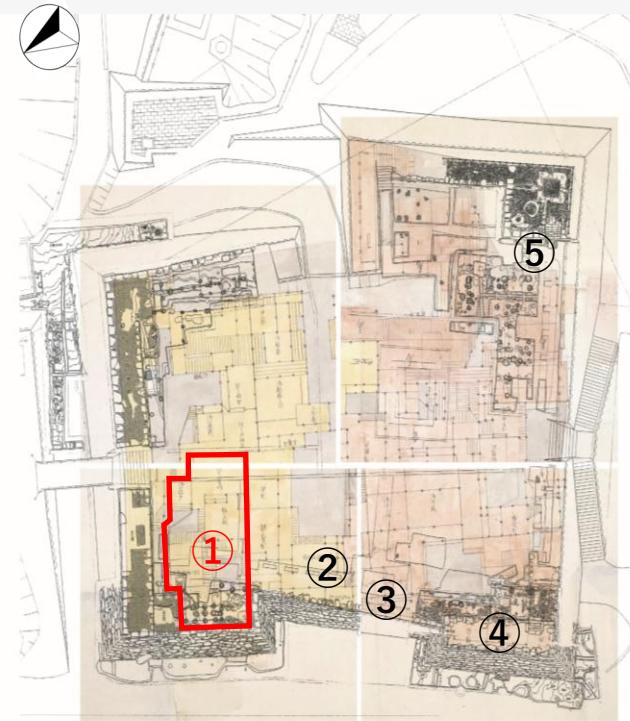
盛岡城跡本丸の位置

### 3 古写真との比較



「盛岡城古写真」

盛岡市先人記念館所蔵(加筆)



現況図と「盛岡城本丸図」の合成

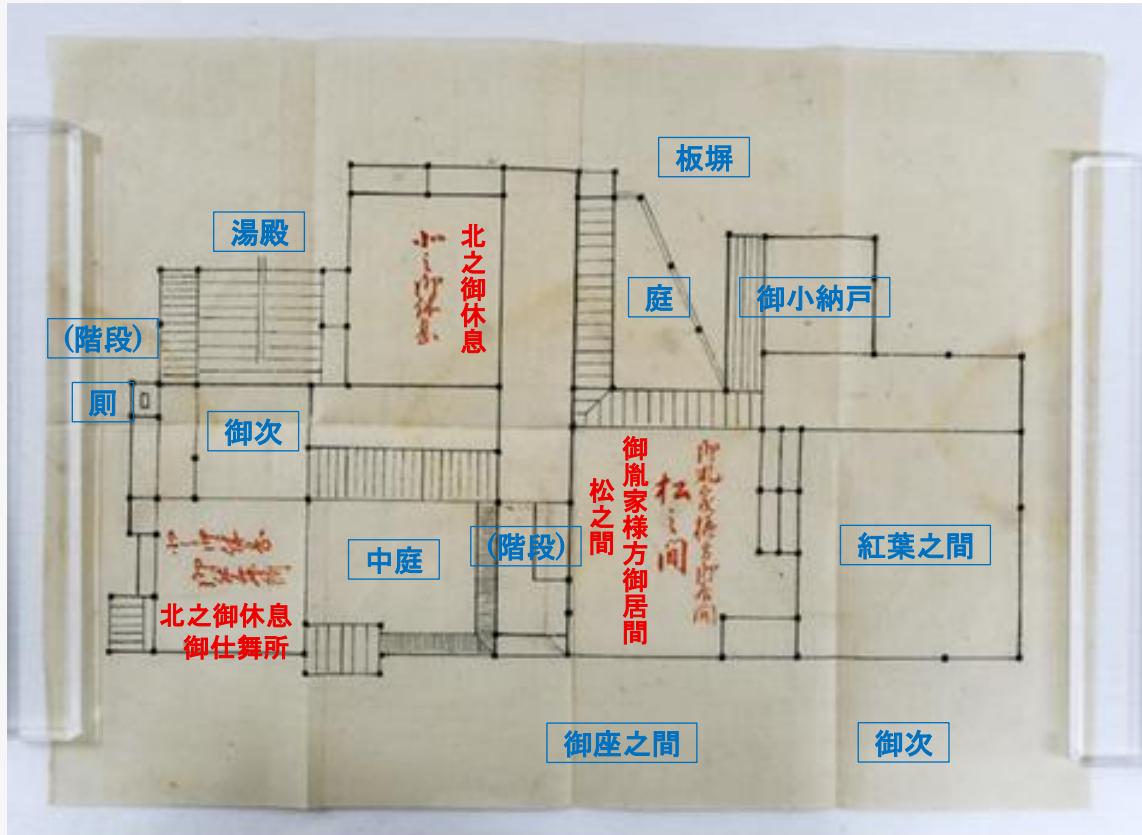
もりおか歴史文化館収蔵(加筆)

在りし日の盛岡城を撮影した写真は現在1種類確認されており、明治初年に菜園側から本丸・淡路丸を撮影したものである。「天守」、「二階櫓」、「本丸御殿」などが確認できるが、杉木立によって遮られ、本丸西側の様相や建物配置の把握が難しい。

今回確認された絵図部分の本丸北西部は杉木立に隠れており、写真に写っていない本丸御殿北西部の姿を知る手がかりとなる。

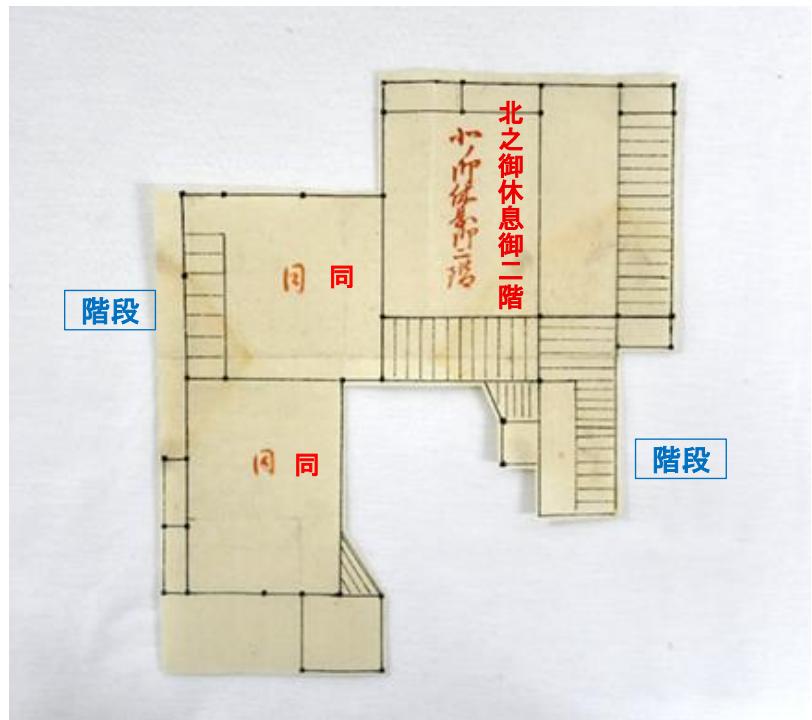
## 4 諸室名称とその周辺

絵図に書入れされた部屋名のほか、近似する「盛岡城本丸図」、一段階古い「盛岡城明細図」から読み取れる周辺の諸室などを表示した。



## 「盛岡城本丸北之御休息之図」一階部分に加筆

床と棚を備え、南と東の庭に面した「北之御休息」のほか、付属部屋「北之御休息御仕舞所」、藩主の子弟、分家が利用する「御胤家様方御居間 松之間」が朱書きで書入れされる。



同左 二階部分に加筆

もりおか歴史文化館収蔵

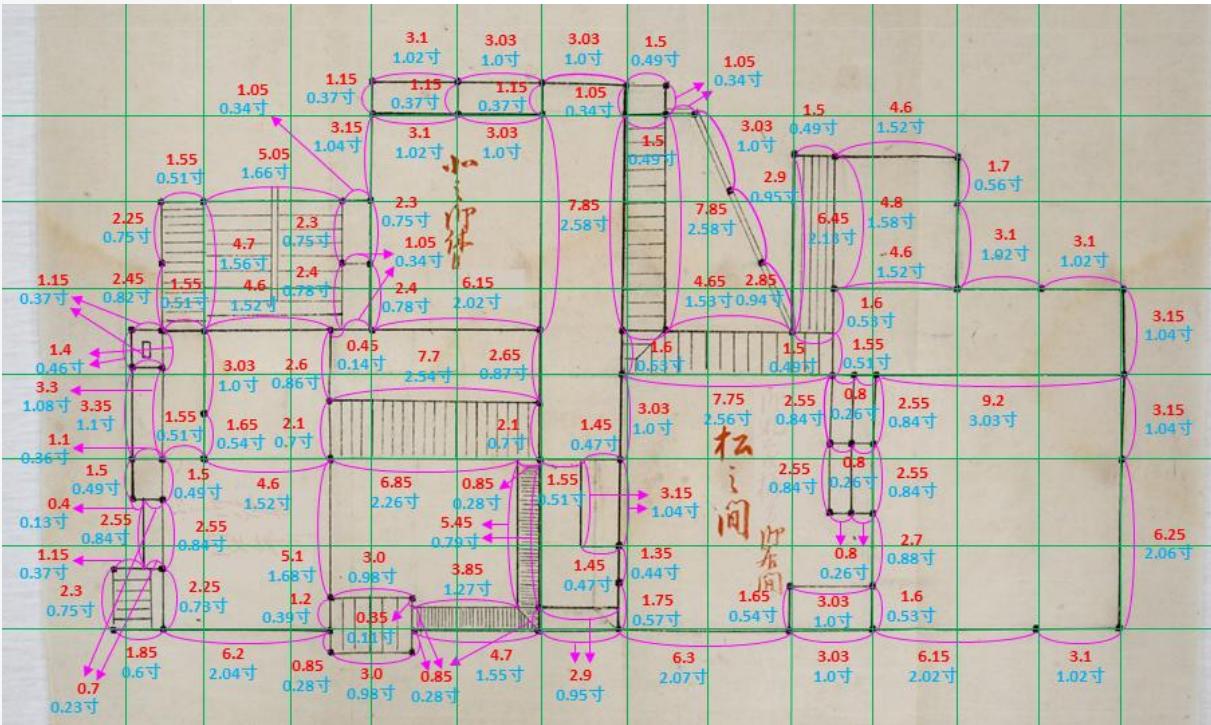
一階「北之御休息」の直上は、「北之御休息御二階」で一階と同様に床と棚が設置される。その西側に2部屋が配置される。その2部屋の仕様・配置から南側が御居間、北側は御次と考えられる。

## 5 北之御休息

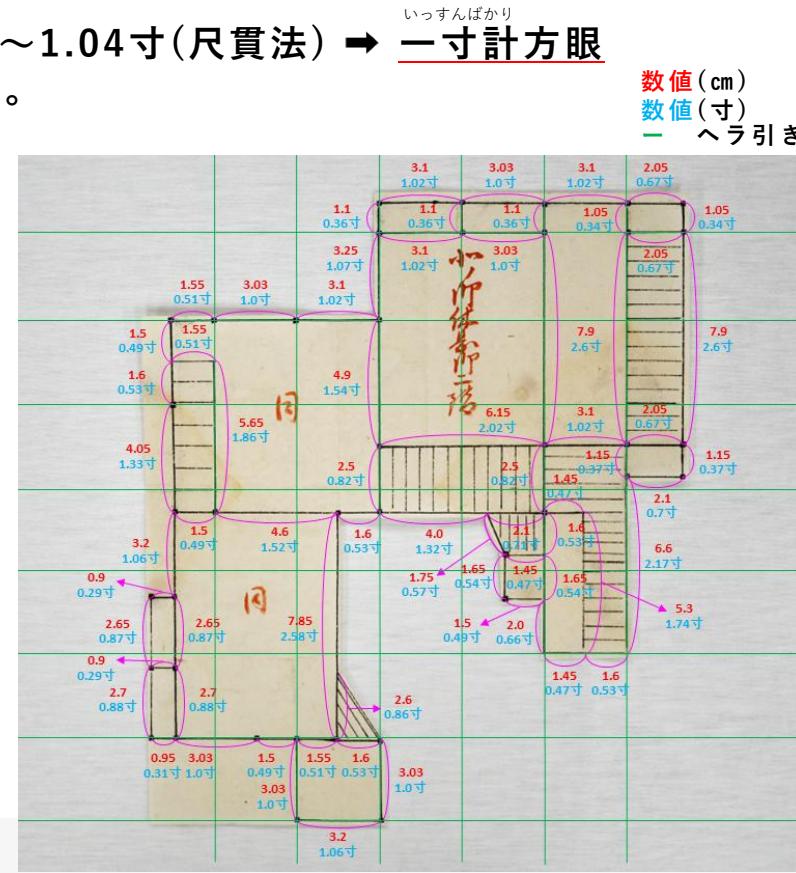
- ・「御側」（藩主の居住区域で政務を執る場）の北西にある藩主用の御居間で、対面・接客機能も併せ持つ。周囲には「御仕舞所」、「湯殿」、「廁」の居住機能のほか、南と東には「庭」が配置され、藩主や客人が寛ぎ、安らぐ機能を持たせている。なお、日常の政務は「御座之間」で執り行つた。
  - ・「御側」の南に所在した「吹貫御休息」と合わせて、「両御休息」と呼ばれる。
  - ・大守様御休息（嘉永元年8月）→北之御休息（嘉永3年3月8日）

## 6 絵図の実測による縮尺

- ・ヘラ引き方眼：1辺約3.05～3.15cm(メートル法)、約1.0寸～1.04寸(尺貫法) → 一寸計方眼
  - ・縮尺：記載はないが、方眼の計測結果から「一寸計」となる。

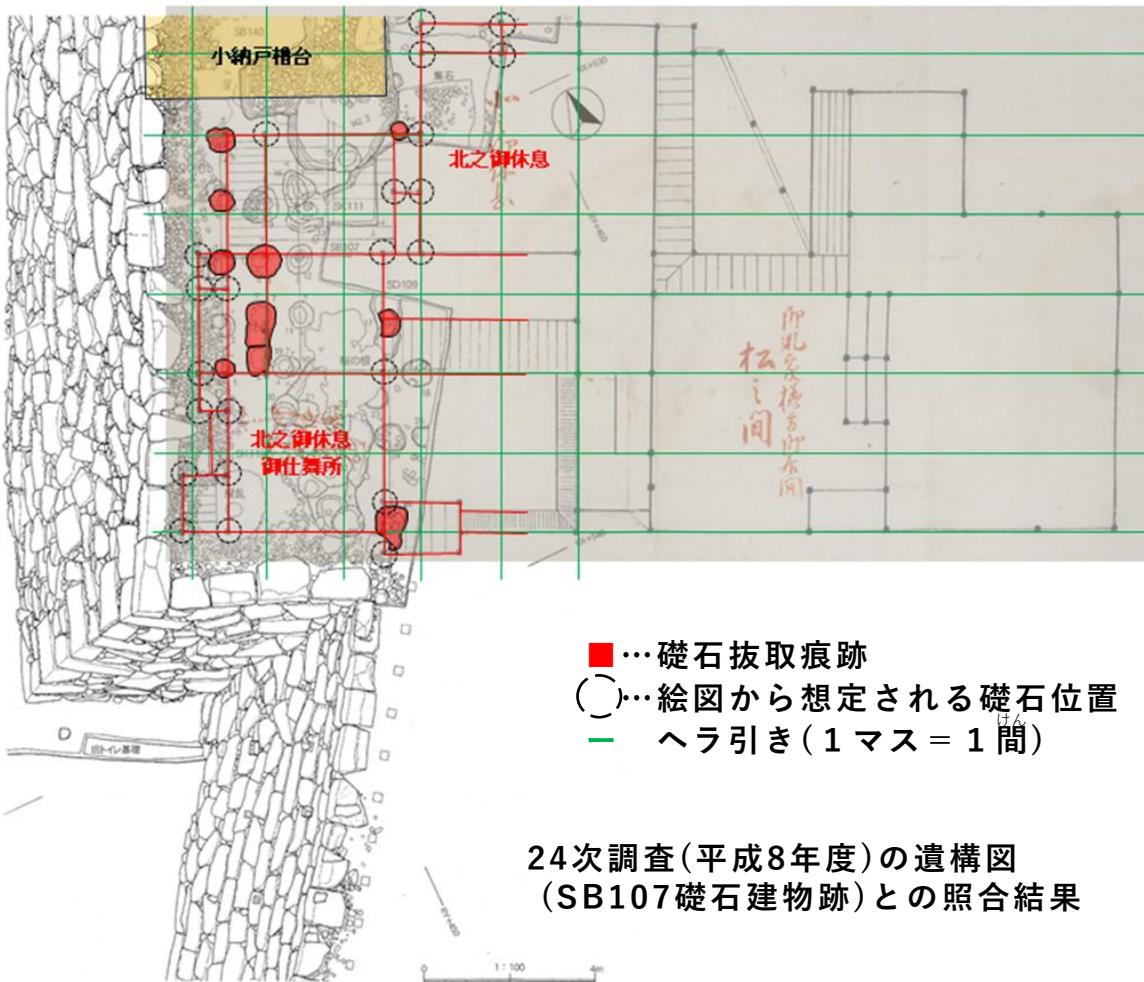


「盛岡城本丸北之御休息之図」一階部分の実測結果

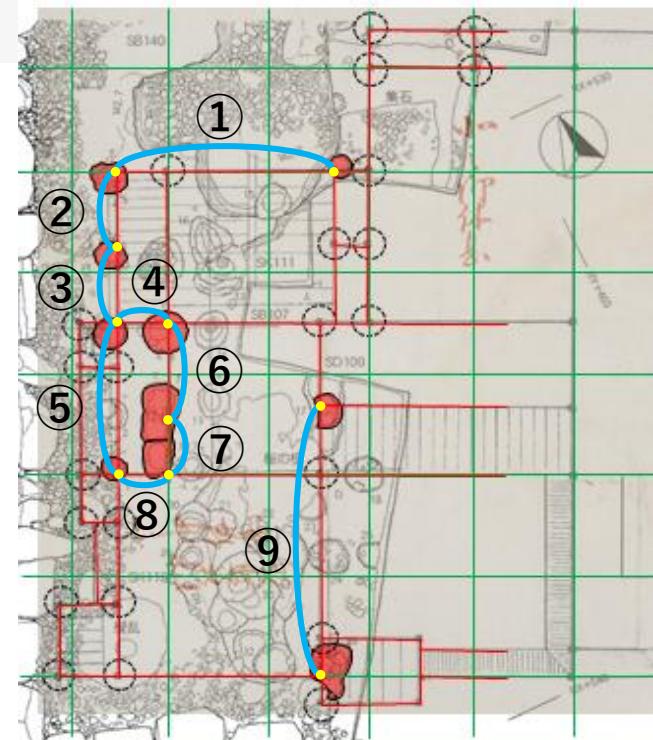


## 同左 二階部分の実測結果

# 7 絵図と遺構図との照合



・平成8年度の本丸北西部石垣修理工事に伴う発掘調査で、本丸御殿の一部を確認している。御殿の柱を建てた基礎<sup>石せき</sup>は失われていたが、その下部の基礎<sup>石せき</sup>と<sup>なり</sup>柱<sup>そく</sup>の位置<sup>とり</sup>が<sup>こんせき</sup>確認<sup>して</sup>いる。その重なりから少なくとも3~4時期の建物変遷<sup>はしらまし</sup>が考えられる。遺構図と既知の本丸絵図(6種)との照合により、基本となる柱筋<sup>はしらじす</sup>やその平面形は踏襲<sup>たずし</sup>されていたことが判明している。この絵図も遺構図との照合ができる、具体的な建物位置の検討が可能である。



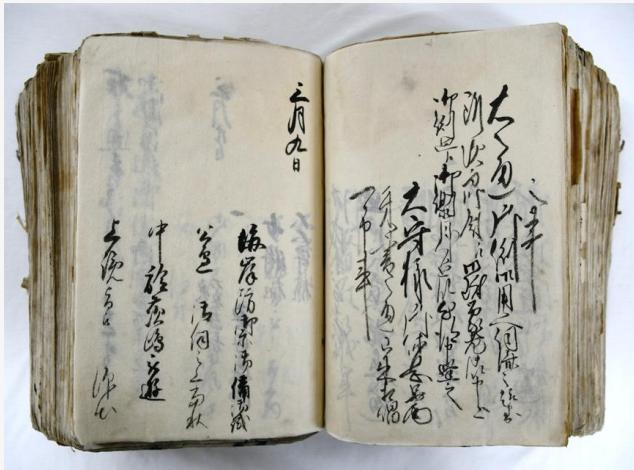
照合できた基礎抜取痕跡間の  
計測位置(絵図の柱間芯々を計測)

表 上図の計測結果

単位(cm)

計測	遺構図*	絵図	縮尺率	備考(*尺貫法による寸法)
①	392	6.6	59.39	12尺9寸4分
②	134	2.25	59.56	4尺4寸2分
③	146	2.45	59.59	4尺8寸2分
④	92	1.55	59.35	3尺4分
⑤	280	4.7	59.57	9尺2寸4分
⑥	186	3.05	60.98	6尺1寸3分
⑦	94	1.65	56.97	3尺1寸
⑧	90	1.55	58.06	2尺9寸7分
⑨	500	8.4	59.52	16尺5寸
		平均	59.22	

# 8 絵図が収納された「被仰出書留」嘉永3年3月8日条



右之通、御側御用人伺濟之趣申出、  
斬次郎殿江御附家老御申上、  
御側廻江御側御目付を以心得申遣之  
としひさ  
・15代藩主南部利剛が参勤交代により江戸から盛岡への到着時(御着城日、3月11日)、本丸の「紅葉之間」、「御座之間御次」、「御座之間御後御廊下通」を通り、「北之御休息」に入る手順が記述されている。

・文末には、「大守様御休息圖面 朱書之通、已來相唱可申事」とあり、この通達によって部屋の名称が変更される。

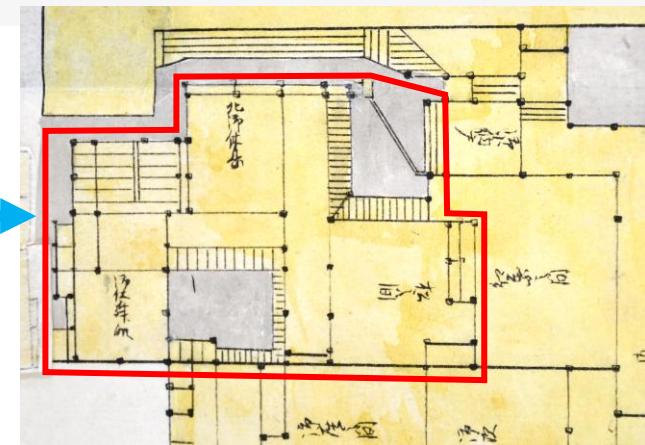
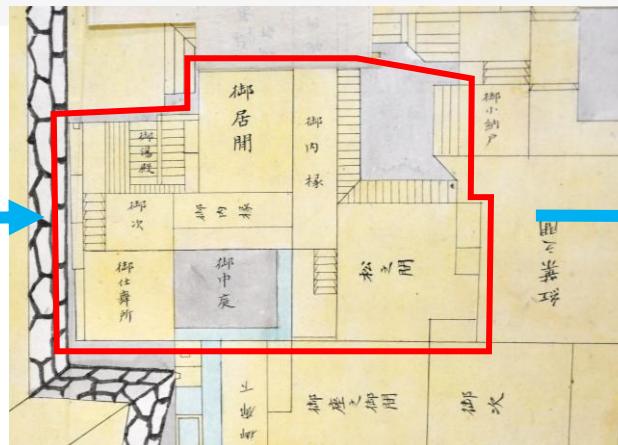
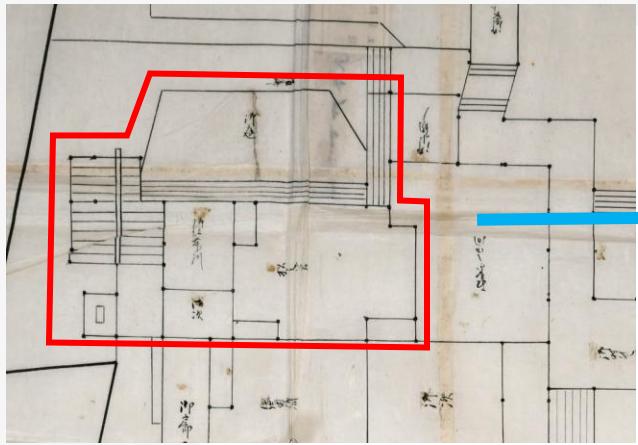
\*「覚書」安政元年2月4日条に「嘉永三年三月 御本丸奥北御休息御普請御用出精相勤候ニ付、…」が確認される。

➡ 普請目的…藩主利剛の盛岡への下向（藩主として初）に合わせた御休息の改築である。

作図目的…本丸内の案内図、名称変更の周知で、作成された絵図は竣工図（完成図）である。

# 9 盛岡城本丸御殿北西部の変遷

— 普請想定範囲



いづれももりおか歴史文化館収蔵

- 「被仰出書留」嘉永元年8月3日条
- 「覚書」嘉永元年8月4日条  
「奥松之間続江此度、新規御修補之御場所」を  
「大守様御休息」と呼称する通達。
- 「被仰出書留」嘉永元年8月5日条  
「奥松之間続江御修補之大守様御休息通」に  
「下御居間、御仕舞所、東御居間、西御居間、  
同御次」の各部屋が完成した通達。

\* □…一階、□…二階

- 「被仰出書留」嘉永3年3月8日条  
「北之御休息、御仕舞所、北之御休息御二  
階」の各部屋が完成(改築)し、「大守様御休  
息」を「北之御休息」と呼称変更する通達。

- 「覚書」安政元年2月4日条  
「嘉永三年三月 御本丸奥北御休息御普請」  
完成年代の記述。

\* IV期とV期の間に「北之御休息之図」が入る。

文献資料の普請関係記事についても調査中で、御側では嘉永3年以降に大きな普請や取壊は行われていないことから、本丸御殿北西部は確認された絵図の間取りのまま、明治7年(1874)に建物払下げ及び解体となった可能性が高い。